

親子清掃ありがとうございました

親子清掃活動を2月1日の土曜日に設定させていただきました。ナント！今年は131名もの保護者の方にご参加いただきました。どこの教室に行っても、子どもと保護者の方がいっしょに、日頃できない棚の上や窓ガラス、ベランダなどの掃除に一生懸命取り組んでいただいていたました。学年末のこの時期、次年度のきれいな環境づくりに取り組んでいただきましたことを心よりお礼申し上げます。

○世界一のシェアを誇る地元金型工場のプライド

2月1日木屋瀬小学校体育館

木屋瀬校区の町工場「三井ハイテック」は、金型やICリードフレームなど、髪の毛よりも細い精密さを出せるアイデアと技術をもつ職人のメーカーでした。

一万分の一ミリメートルの長さを瞬時に計ることのできる精密な機械を体育館に持ちこみ、手で握っただけで金属が伸び縮みすること、鉄と超硬度の金属では伸び縮み方が変わることを実際に見せてくれました。

オリンピックでは世界の強者が集まり競い合いますが、三井ハイテックは精密金型やフレームで金メダルを取っているメーカーなのです。

わずか3人で始めた地元の小さな町工場が、今では世界で戦うメーカーとなっていることを聞いて、子どもたちは勇気と希望をもてたと思います。

世界一の木屋瀬プライド、こんな近くの町工場にあったのですね。梅田さん、南さん、高倉さん本当にありがとうございました。

○持久走記録会 2月18日(火)～20日(木)

今年から始めた持久走大会は、雨が続き、練習ができなかったため、2月18日(1・2年生)、19日(3・4年生)、20日(5・6年生)に延期しました。さらに雨天時は翌週に延期します。

本校の持久走記録会は、体育の学習ですので人との競争ではなく、自分で距離を決めて、タイムを計り、自分の体力向上をねらうものです。また、1日だけ頑張るのではなく、毎日続けることによって、体力の向上をねらっています。

生活がんばりカードでは、「親子で楽しく走っています」「雨だったので筋トレにはげみました」などの、嬉しいお便りをたくさんいただきました。

さすが、木屋瀬！この大会をきっかけにして、身体を動かす楽しさに気付いていただけたら嬉しいです。

新1年生体験入学 2月5日(水)

80名近くの新1年生が木屋瀬小学校に体験入学にやってきました。

学習参観・懇談会 2月12日(水)

今年度最後の学習参観です。子どもたちの一年間の成長の様子をご覧ください。

火おこし体験3年14日(金) 昔遊び体験1年21日(金)

地域のおじいちゃん、おばあちゃんに来ていただいて昔の生活を教えていただきます。

シリーズ
子育て応援

～校長の独り言～

「もう一人の自分」を育てる 「伝える力」池上彰より

物事を誰かに伝える場合は、「独りよがりにならない」ようにすることです。そのためには、「もう一人の自分」を持って、それを育てていくとよいでしょう。

例えば思いついたアイデアや企画を書き出してみたとしましょう。その際、書いたあなたが「なかなかいい出来じゃないか」と思ってしまったり、「もう一人の自分」がいるとは言えません。書いたあなたも、見直しているあなたも、どっぴりそのままのあなたです。

「もう一人のあなた」がいたら“その人”はどう見るでしょうか。

「そういえば、これ、3年位前にも流行ったな」

「でも、これ、ほんとうにおもしろいかな」

「論理展開が一貫していないな」

「文章が分かりにくい」

「誤字脱字がたくさんあるじゃないか」

そういったことに気が付くかもしれません。

これが「自分の中にもう一人の自分」を持つという意味です。もう一人の自分は、常に自分に“ツッコミ”を入れます。

「おいおい、これ、ほんとうにおもしろいのか?！」

「なんだよ、これ、なんの新味もないじゃないか」

「なんだか、よみにくい文章だな」

おいおい、改善の余地はまだまだあるぜ、というわけです。

こうして、「もう一人の自分」を持つことで、“一人ツッコミ”ができるようになります。

“一人ツッコミ”は、話すときにも有効です。

会議で発表しているとき「反応が今一つだな」と思う。これではまだまだ不十分。もう一歩進める必要があります。

「今、言っていることがあまり伝わってないんじゃないか。まずいまずい。じゃあ、別の面から説明してみよう」

ここまで思えて、さらには実行に移せてこそ、「もう一人の自分」がしっかりと“ツッコミ”を入れていると言えます。

「うーん、なんか難しそう。不器用なオレにできるかな?」
そう思う人がいるかもしれませんが、これが意外にカンタン。いったん、“クセ”にしてしまうと、思いのほか、難しくもないものです。

少しでもよいから、書くときも、話すときも「もう一人の自分」を常に意識する、そして、自分に“ツッコミ”を入れてみる。そうすることで、あなたの「伝える力」は確実に上達していくはずですよ。

さて、ここからは「親子カラ」。あなたはお子様にも、どうやって“一人ツッコミ”を入れるようさせますか?

私だったら、…。